

平成30年度 第1回江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成30年7月26日(木)午後1時30分から午後2時50分まで
会 場	江南区役所 302会議室
出席者	江南区自治協議会委員 23名(欠席7名) 教育委員: 沢野教育委員、上田教育委員 事務局: 教育次長、教育総務課長補佐、学校支援課長補佐、地域教育推進課長補佐、亀田地区公民館長、亀田図書館長、江南区区教育支援センター所長・指導主事2名 江南区役所: 江南区副区長、区民生活課長 傍聴者: 0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(沢野教育委員、上田教育委員) 3 平成30年度教育委員会の施策について(古俣教育次長) 4 意見交換(司会 江南区教育支援センター所長)
自治協委員	地域と学校パートナーシップ事業の一環として昨年、亀田小では「亀っ子応援隊」を立ち上げ、学校、コミ協、区役所、商工会議所、地域協力者を中心に30名ほどの人数で会議を昨年2回開いた。三・九の市(いち)の活性化、かめだ祭りへの協力、商店街の魅力発信などをテーマとして、学年ごとに1年間活動していく中で、子どもたちは地域の人たちと接触する機会がたくさんあって勉強になったということだし、地域としては子どもたちと接点を設けることができたと評価している。 コミ協としても、学校のパートナーシップ事業以外にも、かめだ祭りの甚句流しに子どもたちと一緒に参加しており、その前に小学校で盆踊り大会を実施、二百数十名参加している。9月に地域と小学校の合同で防災訓練をやり800人ほど参加があった。先ほどお話があった「子どもの命を守る会」(通学路の危険箇所点検会議)が6月13日に早速開かれ、23名の地域の方と学校の先生が出席して話し合った。 このような機会を通じて感じたことは、会議やイベントの中でいろいろな人たちとつながりを設けて絆が深まっていくが、先ほどのアンケートがどんな形で取られているか分からないが、必ずしも全員がそういう評価をしておらず、積極的な方もいるが理屈は分かっているにもかかわらずなかなか参加できない方もいる。この辺の地域力の温度差をなくして全体の力を上げるにはどうするかが、一番課題と考えている。 今日お話のあった取組を通じていろいろな方と知り合う機会が増えてくると、また大きな輪になって活性化していくと思うので、取組はぜひ今後とも続けていただきたい。
地域教育推進課	パートナーシップ事業は広める時期を過ぎ、いかに充実させ持続可能なものにしていくかが課題と認識しており、様々な場面での協働が重要であるというご意見はありがたく承った。地域がより活性化されてますます地域と学校の結びつきが強まることも期待している。
自治協委員	以前から防災の活動をスムーズに実施するにはどうしたらよいかが地域で課題

学校支援課	<p>になっている。小・中学校はいろいろな想定で避難訓練をやるが、地域の場合災害時の避難のみであり、地域全体の形が年1回あっても、参加者は町内の役員の方と決まっている感じである。学校は平日授業として、地域は土日が希望なので学校と地域と連携して行うには1年前にすり合わせる必要があるなど、毎年行うのはすごく難しいと痛感している。亀田西小は、毎年地域連携で行っているとのことで、よい実践例を分かりやすく他の学校や地域、自治会などに教えていただきたい。</p> <p>市では防災教育指定校を5年間で指定して今年度34校実施し、昨年度の実践の成果を事例集としてまとめており、避難訓練の形や地域との関わり方も見ることができる。各学校に配布しているが地域向けには発信していない。今後、良い取組事例を地域の皆様にお知らせしていく手段がないか検討したい。</p>
自治協委員	<p>以前小学校で勤務していた時、コミ協と学校で土曜日に合同避難訓練ができないか話し合い、1年間かけて準備して新潟地震の日の土曜日に実施し、地域の方が津波を想定して学校の屋上に避難する形で行った。学校と早めに相談し何とか合同でできないか、そのために地域がどう動いていけばいいのかということ話を合ってみるのも、一つの方法と思った。</p> <p>中学校区の全部の小・中学校と地域でやるのは難しいよねで終わって、続かなくなるのは困るし、曾野木地区はゼロメートル地帯で逃げ場所も限られているなどの課題もあるので、いろいろ地域と学校で相談していきたい。</p>
自治協委員	<p>早通小コミ協では小学校と6月23日に防災訓練を行った。出席者は270名。その後も、夏休みのお楽しみ会や歩け歩け運動など学校と打ち合わせしながら実施。学校の希望は土曜日なので、それに地域が合わせる形で行っている。</p>
自治協委員	<p>西小コミ協では地域全体での防災訓練を2年に1回、自治会ごとの訓練は毎年行っている。今年度は全体の訓練の年で、新潟沖で地震が発生して火災が発生し、煙の流れを確認しながら亀田西小へ避難する想定で行った。</p> <p>消防署やひまわりクラブ、警察、社協などさまざまな団体から協力いただき、9時頃から避難開始、10時前に学校集合、開会式等を行い、水消火器・車椅子の体験、応急担架の実地訓練、情報ブースなどを設けた。日程については、合同訓練は2年に1回として学校と調整し、今年度は6月24日(日)に実施。申込みで150名の想定だったが実際は400名超参加があったので、かなり定着してきたと思う。</p>
司 会	<p>子どもたちの様子はいかがでしたか。</p>
自治協委員	<p>中学生のジュニアレスキューの訓練が1か月前にあり、部活単位で動員をかけ20名くらいの生徒の参加があり、水消火器を使ってくれた。小学生は、例年では学校の授業日に組み込んだりするが、今年度は回覧板で周知して個人の意思での参加という形にした。小さなお子さんには難しい内容もあったが、実地体験の水消火器は、体を動かしていい体験になったと思う。</p>
自治協委員	<p>1. 5～6ページのアンケートは全員対象か、肯定的な人だけ答えたのか。その結果、自己肯定感が育まれているというのは、どういうことでそう感じるものか。</p> <p>2. 危険箇所をなくすことや見守りは大切だと思うが、教育の力で犯罪を起こす人を少なくすることはできないのか。具体的な動きがあれば教えていただきたい。</p>

地域教育推進課	<p>3. 働き方改革の資料に「ノー残業デーを実施」とあるが、仕事が結局残ってしまい次の日にもっと残業をしなくてはならなくなり、これで仕事が減るのか疑問である。</p> <p>1. アンケートは平成29年度に実施したもので、設問によって回答者が異なる。「事業が子どもの元気につながっているか」、「児童・生徒の成長につながっているか」の回答者は教職員。緑色の「事業は地域の元気につながっているか」については、パートナーシップ事業にかかわってくださった地域団体の方に回答を依頼し、結果を集計したのが、左下の緑色の欄の中のグラフである。</p>
学校支援課	<p>2. 例えば具体的な事業として犯罪者抑止教育プログラムなどをやっているわけではなく、学校教育全体を通じて道徳教育に取り組んでおり、道徳が教科になった背景にはいじめの問題があるが、しっかり道徳教育を行っていく中で、いじめを絶対に許さない、生まない、人権・命を大切にするといったことを全国の小学校、新潟市内の全教室で必ず行っている。学年の実態に応じて、小さい頃から繰り返し行っていく、道徳の力を借りて犯罪者を生まない教育ができるとよいと考えている。</p> <p>自己肯定感というお話があったが、自己肯定感に溢れた世の中だとしたら、もしかしたら犯罪の抑止につながるのではないかと思う。不満を抱えていたり、自分が認められていないと感じている方たちがいろいろな思いを抱えているのかと思う。</p> <p>3. ノー残業デーだからといって仕事は減らないが、メリハリを付けてリフレッシュをすることで、区切りをつけてみんなで早く帰ろうという意識を高め、そのことで仕事にリズムを生むと多少は多忙化の低減になると感じている。</p>
沢野教育委員	<p>西区の事件でいろいろなことを考えさせられた。学校で道徳の授業をやるだけでなく、家庭でも、授業の内容を親子で話題にできればよいという期待を持っている。自分が小さい頃親からも言われ、子どもを育てるときにも言ったのが、人からしてほしいことは絶対にしない、人からしてほしいことは人にしてあげようということ。これは普遍的なことなので、親子で会話の機会をたくさん持って、日々そういうことを培っていく小さな積み重ねが、犯罪を生まない心を育てていくのではないかということ。家庭教育も大事と思う。</p>
上田教育委員	<p>教育委員の立場で中学校区に行き、各校のパートナーシップ事業のお話を聞く機会がある。地域の方々から子どもたちが、地元の祭りや農産物の育て方など経験のないことを、褒められたり注意されたりしながら習っていく中で、自分はこういうことができるのだとか、新しい趣味や興味も増えたりする様子を見ることができた。そのようなところで自己肯定感というのは非常に育まれていると思った。</p>
自治協委員	<p>自己肯定感という言葉が学校の様々な場面に出てくるが、子どもにわかりやすく伝えようとする、「自分を好きだと思えるか」などと訳されることが多い。本来の自己肯定感の定義が自尊感情という部分であるとするなら、肯定的な感情だけでなく、どんな感情もあっていいということが大事で、そういう感情があることも自分の中で肯定したい時、それを自己受容できることと、他者から受容してもらうことが大事なのではないかを感じる。お友だちと仲良くしましょうという場面で、馴染みたいと思っているがうまくできない時に、子どもたちも苦しさを感じていると思う。道徳が教科になって、言葉としてみんな仲良くしようということが、日本の文化的な部分もあると思</p>

うが強調されていたりするし、親である私たちも今の教育を受けていないので、うまく説明できないということもあって、「自分を好きだと思えるか」というアンケート項目にすごく違和感を感じるので、言葉の定義をもう少し明確にしてもよいと思う。

多忙化解消について、学校の中にそういう空気が醸成されるまで伝えていかないと、先生たちは「仕事はいっぱいあるのに」という気持ちの中で早く帰らなければという義務感になってしまうので、ちゃんと浸透させていただきたい。学校の先生が疲れていることは本当に感じるし、保護者としても理解していかねばいけないと思うので、保護者にもしつかり伝える機会があってもよいと思う。

学校支援課

子どもは本当に多様で、褒められることが嬉しい子どももいれば、そっと見守っているのが嬉しい子どももいる。その子の周りに、どれだけその子のことを見て声をかけたり考えてくれている大人がいるのか、世間や社会とつながっている大人がどれだけいるのかということが、まさにその子を包み込んでいることだと思う。お話のとおり、教育がどんどん新しくなっている面があって、教育委員会が学校を通じて保護者の皆様にも新しい教育の取り組みについて伝えていく必要性を感じた。

多忙化解消について、市役所も水曜日にノー残業デーの放送が入るが、職員はなかなか帰れない、早く帰れと言うのなら、もっと仕事を減らしてほしいという思いもあるのかもしれない。教育委員会や学校そのものも仕事を少なくしていく勇氣も必要だし、時にはみんなでリフレッシュしよう、それが決して悪いことではないのだという空気を伝えていくことの必要性、大切さを今のご意見から学ばせていただいた。

自治協委員

大変単純で素朴な質問だが、実際に学校の先生方というのはどんなことで忙しいのか。仕事の内容はどうか、そこが分からないのでお聞かせ願いたい。

学校支援課

他区の民生・児童委員の方々に、今の教育の動向について話をしたときに、新しい学習指導要領や今どきの学校事情をお伝えしたら、「学校って大変だね、先生方は大丈夫かな」とかえってご心配をおかけしてしまった。国から新しい教育がどんどん入ってくることで、例えば外国語が小学校にも導入され、道徳も教科となる。これまで外国語を専門にしてきた小学校の先生はいないので授業に関する準備で時間がかかる。しかしもともと教員は子どもに教えたいという人が教師になっているので、同じ時間を使うのであっても授業の準備等についてはあまり大変だとは感じないが、会議や提出物の事務作業に時間を取られたりなど、パソコンが普及したことで忙しさが増しているという状況はあるかもしれない。また、実際に一番多忙感を感じているのは保護者対応だと思う。子どもが喧嘩をして子ども同士では解決しても、親御さんがなかなか納得しないで学校に申し入れてきたり、理不尽な要求を伝えてきたりその対応に時間をかなり使っている例もある。

自治協委員

民生委員は一人の委員について一人協力者を付ける協力支援制度があるが、学校でも退職した先生などから協力してもらい、仕事を軽減していったらどうか。

学校支援課

資料の多忙化解消行動計画の「教育委員会の取組」に、学校の先生だけで大変なら手助けしてくれる人がいればいいのではという観点で、⑤スクールロイヤーとして法律的に相談できる弁護士を教育委員会が雇用する制度を導入したり、⑥学校事務支援員として事務を行う方を雇用して学校に配置したり、部活の顧問として活

自治協委員	<p>動できるような部活動指導員を少しずつ国の補助を活用しながら入れている状況。</p> <p>今年は大変な暑さになっているが、学校の教室には冷房装置がないとのことで、この間の名古屋の事故などを踏まえて、政府では、すべての学校の教室や災害時の避難所になっている体育館などに冷房を完備するように進めようという方向を記者会見で話していたが、来年度からすぐ実施できるのか。教育委員会にどんなところまで国から指示がきているのか、見通しはどうか教えていただきたい。</p>
教育次長	<p>今日も暑く、市内小学校は、今年で56回目の陸上記録会をこの猛暑で中止したところ。新潟市の学校施設の整備指針では、保健室や図書室、コンピュータ室、教務室などにはエアコンを設置しているが、一般的な普通教室には設置する方針になっていない。普通教室に導入しているのは、空港や幹線道路の近くで騒音対策が必要なところであり、暑さ対策としてエアコンを入れている教室はない。</p> <p>国がエアコンの導入について記者会見を行ったが、具体的な形は我々にもまだ来ていない。現在、エアコンを普通教室に入れようすると約60億円かかってしまい、その後のランニングコスト等もあり、費用的な面で難しい状況であるが、国の方針については今後も注視していかなければならないと考えている。</p>
司 会	<p>意見交換を終了するので教育委員から一言お願いします。</p>
沢野教育委員	<p>多方面からのご意見をいただき、これを参考に、教育委員も協力させていただきたいと思う。</p>
上田教育委員	<p>先生の多忙化について、「忙しいから、これはできない」などと言う先生がいたら、周りの人は「この先生大丈夫か」と思うという感じで、それだけ先生は本当は言いたくても言えない、やるべきことは全部しないといけない立場だと思う。この何十年、仕事は増えることはあっても減ることはない中でやっておられると思うし、そういう意味では周りの人が理解して、減らしていったらあげないといけないことの一つだと思うので、もしお話が出たら積極的にご協力いただければと思う。また先ほどのエアコンの話についても、私も本当にそう思う。私たちに決定権はないが、予算のこともあるので、また声をあげていきたい。</p>
議 事	<p>5 自治協議会長あいさつ</p>
自治協議会会長	<p>皆さんのお考えの根底には、子どもたちが健やかに元気に育ってほしいということがあると思う。教師の多忙化解消については、やはり難しい課題がかなりあるようにも聞いている。私も小・中学校で評議員等をやらせていただいていると、地域からも声も出ているし、中には本当に些細なことでも事を大きくして周りにひろげる保護者も見受けられるので、家庭教育の充実について考え直す必要があると思う。自治協議会の皆さん、また各自治会で大人たちが安全を見守ると同時に、登下校の安心安全だけでなく非行防止などを念頭に置きながら、もう一度自分の若いときに戻って、周りとの連携を取りながら、本当に安心安全に子どもたちが日常生活をおくるにはどうしたらよいかを考える必要があると思う。</p> <p>いろいろ課題はあると思うが、官民一体となって明るい地域づくりに努力していきたいと思うので、今後もよろしくお願ひしたい。</p>
	<p>6 閉会</p>

